

特 集

徹底解説！ 噴門側胃切除術

食道胃接合部癌の増加に伴い、噴門側胃切除（proximal gastrectomy：以下 PG）が考慮される機会が多くなった。胃癌治療ガイドラインでも、径 4 cm までの食道胃接合部腺癌に対しては、胃下部リンパ節郭清（全摘）は必要ないとされている。一方、PG 後の逆流性食道炎などに悩まされる症例もあり、PG 施行を躊躇する外科医もまだ多いと考える。2010 年手術症例の胃癌学会全国登録では、PG の割合は 4%であった。最近では、さまざまな逆流を防止する工夫も報告されており、また全摘と比較した栄養評価の報告も数多い。しかしながら、いまだ標準化された手法はなく、施設間、外科医間の違いも大きいと考える。

本特集では、食道胃接合部腺癌に対し PG を行う際のリンパ節郭清（特に下縦隔）と、PG 後の再建方法の手技を、動画もまじえて解説いただいた。名手による郭清と再建方法の実際を一挙に学ぶことで、これから PG に取り組む若手向けに、傍らの手技書になれば幸いである。また、すでに PG を行っている外科医の方々にも参考になれば望外の喜びである。